

唐工ニュース



佐賀県立唐津工業高等学校
〒847-0832 佐賀県唐津市石志字中ノ尾3072番1
TEL 0955-78-1155 FAX 0955-70-3021
https://www.education.saga.jp/hp/karatsukougyoukoku/



令和6年
2月1日発行
第327号

「大人になるということ」

2学年主任 宮崎喜則

三年生の皆さん、もうすぐ高校卒業ですね。今回の唐工ニュースには、最近私が考えていることについて寄稿しました。卒業への臆（はなむけ）の言葉になっていないかもしれないし、多少難解で読みづらい文章になっているかもしれません。ただ、今後の人間関係を円滑にしていける上で参考になればと思っています。

人のパーソナリティの発達過程は、人格の多重化過程であるといわれています。生まれたての赤ん坊にとって世界は未分化で、自分と他者との区別がついていません。しかし、少し大きくなってくると、自分の周りに別人格の他者が沢山いて、ある人と別の人ではメッセージの受容感度が異なることに気づくようになります。

例えば、自分の要求に対して母親と父親とでは対応が異なることに気がつきます。また、友達と学校の先生とでも反応が違います。そこで、コミュニケーションを円滑にするためには、相手によって態度や言葉遣い、声のトーンなどを変えた方がよいということを学習する。いわば「別人格を演じる」ことを学習するのです。

私たちは、相手と自分の社会的関係や初対面か親しいかなどによって、場面ごとに関係性を構築しなければなりません。場面が変わるごとにその場にふさわしい言動でコミュニケーションをとれる人のことを、私たちは「大人」と呼びます。

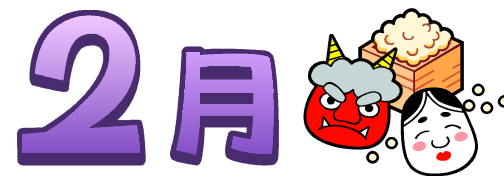
近年、この「別人格の使い分け」が、「表裏のある人間」とか「相手によって態度が変わる人間」とかネガティブな評価を受けるようになり、「統合された人格」をすべての場面で貫き通すことが望ましい生き方であるかのような風潮になってきています。しかし、私はこの考え方は非常に危険であると考えています。「自分らしくふるまえ」「自分の個性を發揮しなさい」と強要する社会は、「ある場面の私」と「別の場面の私」を切り離す能力が育たない。切り離せないことによって、「傷つきやすい私」「耐性や柔軟性を欠いた私」を量産してしまうことになるのではないかと考えています。

生徒が教室の中で「真面目な私」や「にこやかな私」を演じることができず、「イライラしている私」や「退屈している私」を丸ごと生きてしまったら、周囲の人たちを不安に陥れ、本人も心身の不調を起こすかもしれません。学校とは別の場面で「のびのびと生きている私」や「友達と遊んでいる私」がいるように、「高校を卒業したい私」や「そのために努力する私」もいる。いろいろな私がいればいいのだと思います。

私は現在、高校教諭という立場にありますが、「高校教諭を演じている」といっても過言ではありません。自宅に帰ってから自分の家族に「高校教諭的対応」をすることはありません。そんな対応をしたらきっと家族は息苦しいはずで。家庭では「夫である私」や「父親である私」、「家長である私」がいます。高校教諭は私の「多重人格のひとつ」なのかもしれません。

さて、生徒の皆さんは今後様々な道に進んでいくことになります。そこには素晴らしい出会いや嬉しい出来事もあれば、苦手な人や辛い場面に出くわすこともあるでしょう。しかし、あらゆる場面が、あなた方の「耐える力」や「心の柔軟性」を高めるための糧となります。それには、それぞれの場面ごとの心の切り替え、心のスイッチのオンとオフの切り替えが必要です。ある場面と別の場面を切り離す能力こそが人生を豊かにする資質であると思っています。今後の皆さんの活躍と幸せを祈っています。

令和6年2月号



行事は変更することがあります。ご了承下さい。

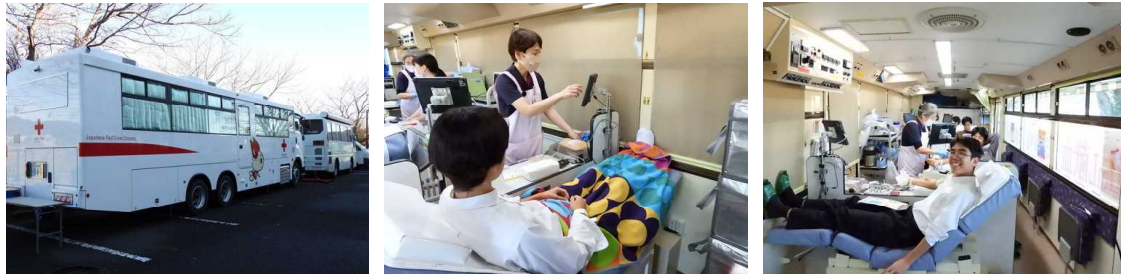
日	曜	時	学 校 行 事	日	曜	学 校 行 事
1	木	平	課研発表(視聴覚①~③建) SC(PM)	1	金	第62回卒業式
2	金	平	工業基礎学力テスト HR(クラスマッチ選手決め) 課研発表(視聴覚①~③土)	2	土	
3	土			3	日	
4	日		大工技能検定(学科)	4	月	一般選抜会場準備
5	月	特	特別選抜準備(PM校内立入禁止)	5	火	一般選抜(第1日目) 生徒家庭学習
6	火		特別選抜学力検査 生徒家庭学習	6	水	一般選抜(第2日目) 生徒家庭学習
7	水	平	3年クラスマッチ	7	木	生徒家庭学習
8	木	D	1,2年生学年末考査(~14日) 卒業生激励会 頭髪服装検査	8	金	①HR防災講話
9	金	D	3年生最終登校日	9	土	
10	土			10	日	
11	日		建国記念の日	11	月	1,2年クラスマッチ(追検査なしの場合)
12	月		振休日	12	火	クラスマッチ予備日
13	火	D	特別選抜発表(13:00)	13	水	合格発表
14	水	D	HR(キャリアアンケート、要録調査)、奉仕活動(部活動生)	14	木	合格者登校日 生徒家庭学習 国スポリハ(PMコート設営) SC(PM)
15	木	平	SC(PM)	15	金	進路ガイダンス(進学希望1,2年生) HR(1年:キャリアパス 2年:進路状況説明会)
16	金	B	HR(要録調査)	16	土	国スポリハ(大会会場)
17	土			17	日	国スポリハ(会場撤収)
18	日			18	月	HR(1年:進路状況説明会 2年:キャリアパス)
19	月	平		19	火	
20	火	平		20	水	春分の日
21	水	平		21	木	表彰伝達
22	木	平		22	金	修了式・退任式
23	金		天皇誕生日	23	土	年度末休業
24	土			24	日	
25	日			25	月	
26	月	平		26	火	
27	火	B		27	水	
28	水	平		28	木	4月8日(月) 新学期 始業式・新任式
29	木	B	卒業式予行 同窓会入会式	29	金	
				30	土	
				31	日	

HT:ヒューマントレーニング SC:スクールカウンセラー来校 キ:機械科 デ:電気科 ド:土木科 ケ:建築科 @:建築科マイスター派遣事業

令和6年2月号

○献血車が来校

1月13日(水)、佐賀県赤十字血液センターから献血車が来校しました。冬場は輸血用血液が不足しがちです。本校からも希望者を募り血液確保に協力しました。先日行われた献血セミナーで、200ml 献血は16歳から、400ml 献血は女性は18歳以上から、男性は17歳から可能だと話されていました。今回は3年生の希望者と職員の44名が輸血が必要な方のために、献血に協力しました。生徒達は献血は初めての人が殆どで、緊張した様子でしたが看護師の方が緊張を解すように優しく接してくれていました。



○浜野浦棚田イベントに参加

1月14日(木)に玄海町の浜野浦棚田イベントとして昨年に引き続き「玄海町みんなの地域商社」とともにイベントに参加しました。今年度は手作りのガチャガチャやハート型ラブレート(絵馬)を1つ100円で販売し、その売上金額を棚田の環境保全活動に役立ててもらうために寄付するなど、地域貢献に寄与しました。今年度は第2弾として玄海町の「玄起海」のマスコットキャラクターの「こまぞうくん」やLED電飾を飾り付けた写真撮影スポット等も製作しました。今回の活動で、生徒たちはとても達成感を感じていました。



○エイズ予防教育講演会

1月20日(水)に唐津保健福祉事務所 健康推進課 保健師 片渕信子様をお招きし、「**知ってほしい、いのちのこと、性感染症のこと**」と題してエイズ予防教育講演会を実施しました。この講演会は、エイズが性行為によって感染する性感染症の一つであることを理解し、適切な感染予防について知り、行動できる力を養う。更に、日常生活の中では感染しない事を理解し、感染者・患者と共に生きる視点を学ぶことを目的としています。片渕先生は、性感染症の種類や症状、将来的なリスクなど写真やデータを具体的に示して分かりやすく説明をされました。最後に、まとめとして生徒の皆さんへ「自分を大切に」「責任が持てるようになるまで性行為はしない」「不特定多数の人と関係を持たない」「感染症予防を必ずする」「もし感染症にかかってしまったかも、と思ったら、必ずパートナーとともに受診を」「いやだな・おかしいな?と気になることがあったら、頼れる人、保健福祉事務所や医療機関に相談しましょう」とお話をされました。



○女性技術者との交流会

令和5年1月20日(水)に佐賀市の「ホテルグランデはがくれ」において女子高生と女子技術者との交流会が開かれました。近年、建築・土木系の仕事に女性技術者が少しずつ増えてきています。しかし、まだまだ少ないのが現状です。そこで建設協会が県内の女子高生を対象に建築、土木系企業での仕事の魅力を伝え、女性技術者を増やすことを目的に女性技術者と女子高生の交流会を企画されました。交流会では、仕事内容や就職前の女性ならではの不安などを話し合っていました。



○第3学期 始業式

1月9日(火)、令和5年度 第3学期の始業式が行われ、東福昌勝学校長から新年の抱負と3学期に向けての心構えなどを話されました。1日に発生した能登半島大地震では、多くの方が生きるために必死に頑張っておられます。皆さんも、被災者の方々に思いを寄せ、日々を送って下さい。3学期は今の学年のまとめの学期でもあり、次のステージへの準備期間でもあります。悔いのないように過ごして下さい。冬休み中、国内では箱根駅伝、全国高校サッカーなど、色々なスポーツイベントが開催されました。中でも、全国高校サッカーでは、被災地の石川県から出場した星稜高校の試合では、被災により来られなくなった応援団に代わって、地元の高校生サッカーチームや、試合が終わった出場選手達が、手作りのプラカードやユニフォームを作って応援席に集い、星稜高校を応援していました。勝敗以上に価値のある行動だと思います。皆さんも、ものづくりに携わる人として技術だけではなく、人を思いやり、応援できる人になって下さい。と話されました。



○2年生修学旅行

1月16日(火)～19日(金)までの4日間、2年生は北海道へ修学旅行に行きました。早朝に学校を出発し、福岡空港から空路にて北海道へと向かいました。残念ながら、大雪による交通機関の遅延により、楽しみにしていた小樽観光が中止となりましたが、翌日からのスキー研修は新雪に恵まれ、初めて見る北国の雪景色や大自然に感動していました。生徒達は熟練した地元インストラクターの指導を受けて、めきめきと上達し、スキー研修2日目にはリフトを使って一人で滑るようになっていました。ホテルでは地元の料理を堪能し、最終日にはサッポロビール園、札幌市内を観光し、たくさんの思い出を作って、佐賀へ帰ってきました。

